



■ NACS-J 自然観察指導員

市民グループ、自治体、学校、企業の協力を得て講習会を10回開催し、461名の新指導員が誕生。生物多様性実感研修会を新たに企画・実施したほか、指導員主催の催しへの講師派遣やメルマガ「しどういん 徒然草」の配信などにより、各地の指導員活動をサポート。新聞やコミュニティ誌などを通して、生物多様性保全の地域の原動力となる指導員の役割や魅力のPRにも努めました。

2010 活動レポート

2009年度の主な成果

あなたのご寄付やご支援で
2009年度、NACS-Jは
全国でこのような自然保護活動ができました！



■ 環境アセス法改正・ポスト2010年目標への提言

生物多様性の損失の最大要因は、開発による生息地の破壊。この現状を変えていくためには環境アセス法が有効なものになるよう戦略的環境アセスの導入、国の審査会の設置などを環境省で提言し、国会の審議に向け働きかけました。生物多様性条約 COP10 議長国としてふさわしい目標設定がなされるよう2020年、2050年に向けた積極的な保全政策が図られるよう NACS-J の考えをまとめ、提言を国内外に続けました。

■ 生物多様性の道プロジェクト

生物多様性条約 COP10 の機会を活用して、地域の生物多様性保全を促す活動を実施しました。「市民による五感で捉える地域の生物多様性・生態系サービスモニタリング」「生物多様性の守り手ガイドブック」「市民調査全国大会」について、全国で保全活動を実践する市民グループに呼びかけ、地域の生物多様性の現況とその保全活動状況について調査を実施しました。また、自然保護の現場を体験し、学ぶ「もり・かわ・うみ・いきものバンザイ！ツアー」の準備を進めました。



■ AKAYA プロジェクト

首都圏の水源地・利根川上流の1万haの国有林「赤谷の森」で、生物多様性保全と持続的な地域社会の構築を目指して、地域住民、林野庁、NACS-J の3者協働で森林管理計画を作成するプロジェクトです。2009年度は過去6年間の植生・猛禽・哺乳類などの調査成果から、赤谷の森の生態系の健康診断を行い、人工林の大半を自然林に戻すなど、今後の森のあるべき姿を3者協働で取りまとめた「赤谷の森・基本構想」を発表しました。



■ 小笠原プロジェクト

小笠原諸島の森林生態系が持続的に守られていくには、地域の方々が計画段階から主体的に参画するしくみが必要です。そこでこのしくみを提案し、実現のために働きかけを行い、新たな官民協働型プロジェクトが開始されることが決まりました。南島モニタリング調査では、新たに外来種による固有種への捕食が確認されたため、関係者と早急に必要な対策や今後の進め方などについて協議を進めています。



■ 自然しらべ2009

湧き水をテーマに実施し、のべ1980人が参加、533件の観察記録が寄せられました。届いた写真を見ていると、思わず訪ねたくなるような魅力的な所ばかり。よい水質や一定の水温が多く生きもののすみかをつくり出し、私たちの暮らしにも有益であることが改めてみえてきました。参加者の多くが、意外と身近にある自然の恵みに喜びを感じてくださったようです。

■ ふれあい調査

綾葉樹林プロジェクトにおいて、綾町上畑地区で地域住民と一緒にふれあい調査を実施。その調査結果をもとに「ふれあいマップ」を作成しました。これを活用して、地域づくりと結びつけた綾葉樹林の保全・復元への地域住民の関心を高め、参加を促すことを目的に、地区の小学生を対象としたふれあい発見ウォーク、町民と周辺市民を対象とした地域の人と自然のかかわりを発見するふれあいツアーを実施しました。また、市民参加のふれあい調査手法を取りまとめた「人と自然のふれあい調査はんどぶっく」を発行しました。



■ SISPA

SISPA の解析情報を広く一般に発表するために SISPA ウェブサイトを公開しました。ここでは、植物群落 RDB と保護地域との関係、照葉樹林保全の活動、海岸植物群落調査の結果が GoogleEarth とレポートの形式で見られます。また、自然保護に関連した GIS (地理情報システム) データを蓄積したデータベースの一部公開 (現在は非公開) に向けてグループ化機能を加えるなど、システムの変更を行いました。鹿児島県大隅半島で残存する照葉樹林の保全のための現地調査を実施し、結果をデータベースに登録しました。





■ 生物多様性条約COP10への参画

生物多様性条約 COP10 に向け、国内外での専門作業部会に参加するなど、海外 NGO や生物多様性条約事務局との連携を築きました。CBD 市民ネットの運営に深くかわかり、COP10 を契機とした日本の自然保護団体の活動展開に貢献しています。また IUCN 日本委員会の事務局を運営し、ポスト 2010 年目標に関する国際シンポジウムを開催しました。



■ モニタリングサイト1000里地調査

これまでに 40 回以上の調査講習会を各地で開催し、全国 196 力所のサイトで調査が順調に始まっています。1200 人以上の調査員の協力によって既に 34 万件以上のデータが蓄積されました。その結果、植物や鳥類の種の多様性の全国的なパターンが明らかとなりました。また、都市化によって森林が少なくなっているサイトほど鳥類・哺乳類の種類数やアカガエル個体数が少ないことが分かりました。

■ 国のモニタリング事業の有効性確保への取り組み

林野庁の保護林や国有林にすむ希少生物のモニタリングには、多額の税金が投じられています。毎年的一般競争入札で実施者がめまぐるしく交代することもある中、これらの仕事を監視し、効果的かつ効果的に進める工夫を講じないと、続ける意味や成果が失われ、無駄遣いにもなりかねません。09 年度は、林野庁の「保護林・全国モニタリング調査」、「希少野生生物の保護と森林施業等との調整」、「緑の回復モニタリング調査（北海道、関東地方）」、「イヌワシ生態調査・モニタリング（関東森林管理局）」の検討委員として参加し、現状評価と改良のための提案を行いました。



■ 「保護地域化の実現」と「保全・修復施策の事業化」への取り組み

北海道の森林保護区を拡大させようという働きかけから、中央部の大雪山系、南に連なる日高山脈の森林保護区の倍増が決まり、北限のブナ林の島・奥尻島の保護区も飛躍的に広がることになりました。南西諸島も、八重山・西表島の保護区の倍増、奄美群島への森林保護区の新設も、今年度実現することに。また、保護地域内でも、自然性を守るために必要な保全策や悪化傾向を止める修復策は、起案と制度の改善が必要です。国立公園の尾瀬・至仏山の登山道周辺の高山植生の修復、富士山・丹沢山地の二ホンジカと自然植生との軋轢の改善、小笠原の固有種保護と外来樹種除去の各事業が、数多くの提案の結果、ようやく始まりま



■ 生きもの情報館

(株) NTT データの協賛により公開したデジタルフィールドノート「生きもの情報館」では、生きもの情報館の登録会員に向けて「生きもの情報館ニュース」を定期的に配信し、登録されたデータの集計結果を発信しました。特に外来生物や温暖化で北上するチョウの分布を中心に広くデータの登録を呼びかけ、全国の 300 名以上から 7000 件以上のデータを収集しました。(写真：伊藤信男)



■ 辺野古・大浦湾の生物多様性保全

この海域の調査活動の経験をもとに、生物多様性の重要性を解説したパンフレットを発行し、普天間飛行場移設の環境アセス準備書の課題を県内外さまざまな場で伝え、活発な住民議論につなげました。政権交代後の日米首脳に問題解決に向けたメッセージを送り、政治判断にこの海域の生物多様性への意識づけを働きかけました。



■ 泡瀬干潟の保全

工事前から毎年行っている海藻藻場のモニタリング調査を実施。調査結果に基づきレポートを作成し、環境監視委員会の場やメディアを通じて、本格的な埋め立て工事実施後に起きている砂州などの地形変化、浅場への土砂の堆積、海藻藻場の消失を指摘し、事業者に対し、工事中断と原因究明、保全措置の実施などを要請しました。

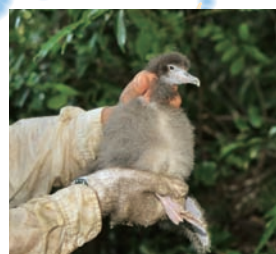


■ 綾の照葉樹林プロジェクト

宮崎県・綾町のプロジェクトエリア内での自然林の復元方法を検討するため調査研究ワーキングを立ち上げ、専門家の委員とともに施業実施方針について検討を行いました。林床植生調査マニュアルを作成し、市民参加の林床植生調査を実施しました。また綾の照葉樹林プロジェクト用の情報共有サイトを SISPA のデータベース内に構築しました。2010 年に開催予定の国際照葉樹林サミットに向けた準備を行いました。

■ プロ・ナトゥーラ・ファン

(財) 自然保護助成基金との共同事業として、第 20 期は国内助成 18 件と海外助成 2 件に合計 1985 万円の助成を行っています。また、第 15 回助成成果発表会では、19 期(2008 年度)助成と 18 期(2007 年度)長期助成の発表を実施しました。第 18 期助成成果報告書を発行するとともに、ウェブサイトにも第 14 期までの成果を掲載しました。(写真：長島の自然を守る会)



■ くらしと自然のつながり再発見！



私たちが生活の中で恩恵を受けている「こと・もの」をひとつずつテーマに取り上げて、それがどんな特徴・条件を持つ自然に育まれたものなのか、ルーツを探っていくプロジェクト。全国からのレポートを募集し、各地の「自然のつながり物語」を会報「自然保護」とウェブサイトでも連載、インタビューや解説記事を加えたオールカラーの小冊子をまとめ、COP10 関連イベントやウェブサイトを通じて配布を始めました。

NACS-J収支決算レポート (2009年4月1日～2010年3月31日)

昨年度もNACS-Jの活動をご支援いただき、誠にありがとうございました。
以下に概要をご報告いたします。

■ 収入・・・会費・寄付金が最大の柱

2009年度の決算は右表の通りです。収入支出とも合計が前年度に比べ1億円前後の減少となっているのは、特に特定資産*の取り崩し・取得が減少したことによります。収入の各項目とも減少しましたが、支出額も同様に少なかったため、全体としては縮小均衡の黒字決算となりました。

基本財産の運用益は本来、財団法人の主たる財源ですが、昨今の低金利下では極めて低い割合となっています。できる限りの運用を、リスクのない範囲で図っています。

一方で会費と寄付金収入は、収入の約40%と大きな割合を占めており、また活動の理解・支援者を増やす意味でも、その拡大はNACS-Jの重要課題と位置づけています。個人会員は高齢化による退会が増えているのに対し、幅広い年齢層の入会者を増やすことが十分にできませんでした。団体・賛助会員については、近年の経済情勢の悪化で地方自治体や企業からの会費が減少しましたが、CSR活動の高まりにより新たに賛助会員となる企業もありました。寄付金については、同じくCSR活動により企業から寄付が増えたのはありがたいのですが、一般個人からの寄付が減少していることは危惧しています。2010年度は会の知名度を高め、支援しがいのある事業を増やすことにより、会員や寄付者の拡大に努める方針です。

*特定資産：次年度以降の特定の活動のために繰り越された資産

■ 支出・・・できる限り自然保護のために、有効に

NACS-Jの公式の2009年度決算は、公益法人改革に伴う新・新公益法人会計基準に沿ってつくられており、通信運搬費や会議費といった科目ごとの数字で出されています。ここでは活動の内容を分かりやすくするため、事業目的ごとの額でまとめ直しました。

新会計基準での管理費にあたるのは「法人運営」です。これと特定資産取得支出を除いた88%を事業費として充てています。

保護プロジェクト事業の主な支出はAKAYAプロジェクトと辺野古、保全研究事業ではSISPA、綾プロジェクト、里やま保全研究、教育普及事業では自然観察指導員養成と自然しらべ、個人会員拡大、編集事業のほとんどは皆さまにお届けしている会報『自然保護』の制作費と発送費です。

受託事業については、保護プロジェクトと保全研究事業に含めています。AKAYAプロジェクトや小笠原プロジェクトなど、NACS-Jで主体的に取り組む事業に関連した必要な事業を受託するようにしています。

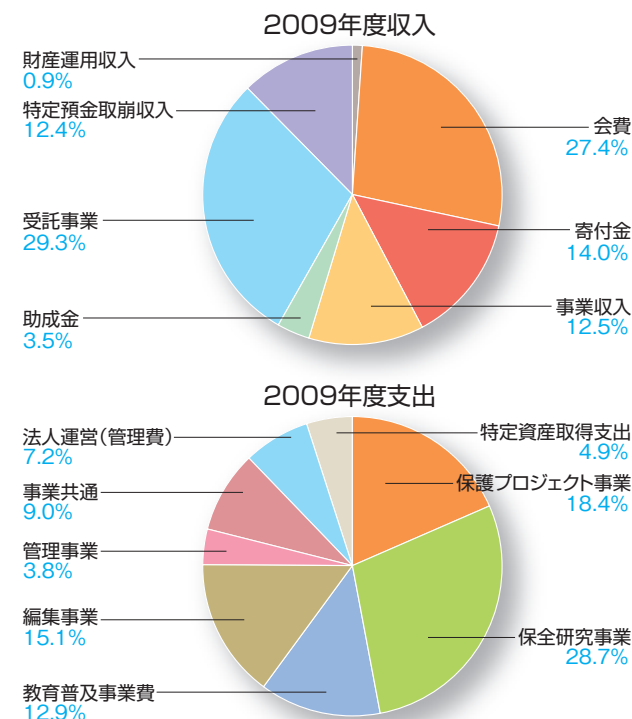
管理事業には沼田賞開催や基盤整備、事業共通には事業全体にかかる費用を計上しています。

■ 2010年度予算と事業について

収支とも全体に微増となっています。前号P16の事業計画説明にあるように、「現場の自然保護」を進め、自然保護活動への直接的な参加者を増やし、活動基盤の強化に努めます。今年もぜひご支援ください。

なお2009年度決算・事業報告、2010年度予算・事業計画の詳細は、NACS-Jウェブサイトに掲載しています。どうぞご覧ください。

● 2009年度の収入・支出割合



科 目	2008 年度決算	2009 年度決算	2010 年度予算
収入合計	¥422,882,644	¥308,752,944	321,010,120
財産運用収入	¥3,739,361	¥2,859,068	1,800,000
会費	¥88,777,160	¥84,303,580	84,350,000
寄付金	¥67,084,608	¥43,256,347	44,550,000
事業収入	¥42,861,685	¥38,582,116	35,200,000
助成金	¥11,084,000	¥10,816,000	16,484,000
受託事業	¥93,523,667	¥90,158,344	86,500,000
雑収入	¥400,248	¥698,134	500,000
特定資産取崩収入	¥115,411,915	¥38,079,355	51,626,120
支出合計	¥472,131,605	¥295,244,668	¥369,080,120
保護プロジェクト事業	¥69,408,158	¥54,293,044	¥63,057,000
保全研究事業	¥120,040,365	¥84,625,780	¥72,073,000
教育普及事業	¥47,712,693	¥38,145,228	¥44,263,000
編集事業／広報編集事業	¥52,270,435	¥44,711,316	¥62,462,120
管理事業	¥10,791,463	¥11,164,095	¥30,584,000
事業共通	—	¥26,560,481	¥22,831,000
法人運営(管理費)	¥50,120,698	¥21,252,530	¥15,570,000
特定資産取得支出	¥121,787,793	¥14,492,194	¥58,240,000

* 2010年度事業計画・予算は、2010年3月24日理事会で決議。2009年度報告・決算は、2010年6月11日理事会で決議。全文は、ウェブサイトに掲載しています。

* 固定資産の増減ではない、資産運用にかかわる資金の動きは上の表には含めていません。*「特定資産取崩収入」は、特定使途寄付積立金など3つの積立金の取り崩し収入です。

* 2010年度予算は、新・新公益法人会計基準に変更したため、2009年度までの事業費区分とは変わっています。

ありがとう ございました

＊
2009 年度寄付サポーター

720 人
総額 4325 万 6347 円

あいおい損害保険(株)・青木一恵・青木伸夫・赤沢美恵子・赤羽ユリ・秋田あや子・浅井聡司・浅野政栄・浅野巨・朝日新聞社・アジレント・テクノロジ(株)・アジレント・テクノロジ(株)社員有志・麻生泉・麻生真吾・足立区立西新井中学校・足立嘉子・足立区立西新井小学校・有(有)アナザー・ワールド・アフラック日本本社社員厚生会・阿部敏行・天野泉・雨森紀人・アメリカンファミリー生命保険会社・新井苑子・荒金泰子・荒川日出子・荒木恭仁子・有川澄代・有坂隆・有馬康作アルカディア社・安富富士子・安生智(有)・イース・飯田百合子・飯塚純一・飯塚友康・池田和枝・池畑文郎・石井田和・石倉清・石田清明・石月芳夫・伊豆海ダイビングリゾート・和泉憲昌・磯村シナ・磯村泰正・板垣 悟・市川人土・一條泰子(株)・伊社・伊東昭代・伊東要・伊藤喜久代・伊藤総平・伊藤八郎・伊藤裕志・伊東タ子・伊東幸雄・稲垣裕治・稲川雅信・稲生和久・井上雄次・今井邦治・伊禮洋代・岩手県立下橋中学校・岩間香宝・上原恵津子・上原眞一郎・上東まど香・請地嘉明・内田昭彦・内山英雄・宇野木早苗・梅崎博敬・

浦賀直美・浦塚信恵・江越一雄・(株)エヌ・ティ・ティ・データ・エヌ・ティ・ティ・データ・(株)・榎田基明・遠藤浩一・遠藤とみ子・合資会社 狼森・大川智子・大久保多加男・大越みち子・大坂知子・大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センター・大澤弘・太田慶子・太田増江・大谷敦子・大槻博明・大野佐知子・大橋秀夫・大平恵三・大牟田一美・岡陽子・岡井健・岡田剛一・岡野弘明・岡本初生・小川治作・小川信一・小本哲・沖熊シユコ環境アセス監視団・奥山千恵美・小山内司・小田邦矩・小高俊彦・鬼塚隆子・小野知洋・小畑徳彦・小原隆史・オブジェ・小見寺公一・尾山洋子・(株)オン・ザ・ネット・開発法子・葛西幸枝・片野和子・賀登環・加藤和子・加藤公満子・加藤健二・加藤晃樹・加藤幸子・Kato グリ・インウッド基金・金沢市立高岡中学校・金山陽子・金子博子・兼城淳子・金久由美子・金丸文昭・加納弘子・カフエスパーレーサー・鎌田 勲・上井 薫・上蘭光子・上田志明・神谷明彦・神谷省司・矢矢津 亀田智佐・下知子・河合明宣・河合斌・河浜史朗・川上典子・河崎行繁・川島 勉・川島治代・川嶋正勝・川那部浩哉・川端隆・川南 仁・河本みね子・NPO 法人環境アフリカ研究機構・神崎美智江・神林敦子・木内聖子・菊地真幸・木田秀幸・北野信久・吉川久子・杵渕トヨ子・木下武司・木原忠男・木原泰文・木村直代・キュービー(株)・共同印刷(株)・清田秀雄・草野恭子・楠見潔・巧方新・工藤勝政・工藤耕一・国森美香・久保隆枝・熊切 保・熊代三(有)・グリーンルーム・栗林淳子・グルーP21・紅林裕子・慶應環境サイクルE.C.O.・(株)ケンアイヤモン・小池イヨ子・小池寛治・小泉恵子・小泉俊江・幸田辰雄・光田道雄・河野純子・国画会・小島弘之・小島三子・小関孝一・後藤清美・後藤賢一郎・五藤孝子・琴岡康二・小西祐伸・

個の地平・小林喜美男・小林敏夫・小林 詢・小林美絵子・駒井邦彦・小松憲司・近藤篤文・近藤俊作・西條紀子・西條恭子・齋藤けさよ・斎藤幹夫・斎藤美・西連寺節子・佐伯信吾・酒井道子・沢尻清光・境野 寿・神久美子・坂本敦紀・坂本彰司・相楽悦男・佐久間 勇・佐々間恵生・桜井昭吉・桜井知栄子・佐々木年裕・佐々木とみ・笹子重治・佐々勝巳・佐藤 輝・佐藤明美・佐藤鋭助・佐藤崇倫・佐藤充郷・佐藤利明・佐藤正美・佐藤祐一・(株)サニクリーン・猿田孝一・(株)シーエス・エス・(株)C.F.P.・(有)シエル・塩田正子・塩原ゆかり・鹿間信弘・(株)資生堂・資生堂社員有志・S.E.I.のDQ 社会貢献くらぶ・花椿基金・資生堂健康保険組合・(財)自然保護助成基金・篠崎雄彦・忍田千明・柴田富美子・柴山裕子・島津幸枝・島田敏子・島田直明・島田裕史・嶋村公利・清水明子・清水和男・清水精子・清水雅典・清水優子・下田和広・下田信廣・下村恒也・下山悦子・(株)シャンロワール・在司たか志・湘南学園高等学校・草本美美代・宗教法人真如苑・神保良幸・末古典子・菅井勇作・菅井良幸・菅治正子・菅治 裕・菅根 衛・菅原和博・菅原大誠・菅原るり子・杉江千歩・すぎなみ環境カイルくらぶ・杉本玄海・杉森広海・杉山弘信・(株)スキャンテックス・助川たみ子・鈴木健司・鈴木忠司・鈴木美紀子・鈴木光子・鈴木保雄・豆本圭基・寸田英利・妹尾和子・瀬尾史恵・関口滋子・(株)ゼネラル・プレス・妹尾小卓・(有)セブエー・ブレス・趣味会・仙波一平・曾我基行・ソニー(株)・(株)ソフィア・SORA の部屋・田植豊美・高木伸季・高嶋孝行・高田修平・高田容子・高仲富美子・高野 徹・高橋 祥子・高橋正一・高橋 英・高橋美奈・高橋洋一・高増泰子・田上 中・田上真一朗・滝石有紀・瀧島真理子・Takanashi 田口貴裕・田久保ちあき・田久保晴孝・竹内達生・竹内陽子・竹口千代美・竹田喜美子・竹

中裕子・武馬吉則・竹村正三・田島敏子・田島由香里・忠地千代美・立岡英宏・巽 幸則・田中しづ子・田中秀典・田中裕一・田邊光彰・谷村直明・田畑清露・田淵隆雄・玉尾恭一・千葉よし江・長南厚・塚原睦子・津京和子・津久井 誠・津久井正幸・辻博之・土田隆恒・簡井和光・露木幸恵・(株)T.A.T.・(株)デマンド倶楽部・寺澤政子・土井敏彦・東京農業大学第一高等学校・時田真市・徳山工業高等専門学校・富園弘之・富田明弘・富永 誠・豊田寿一・(有)トライシブス・虎谷 健・鳥居 進・内藤よし胡・長池卓男・中石光彦・中川キヨ子・仲澤勝利・中島小夜子・永島 毅・中島春江・仲田由雄・中谷智洋・中谷眞砂子・中野和代・永野武司・中野葉子・長濱 清・中部喜和・仲程宗人・中満宗永・中村恵美子・中村 潤・中村征子・中村忠士・中村光敏・中村代良・中山賀史・名古屋短期大学現代教養学科2年阿部せき一・同・名執義高・並木孝之・西浦昭英・西口麻利子・西田克己・西村照雄・西脇留治・日本興亜損害保険(株)・日本住宅ローン(株)・(財)日本生産性本部・丹羽 勇・(株)ニチャ・イスウエイ・(株)ネオナチュラル・野川和子・橋爪隆弘・橋本清・橋本順子・橋本八千代・橋本祐子・畑 勲・服部徹・花岡美佐緒・(有)花工房橋康子・ラフォーテ・イン・スクール・濱崎定也・浜田昭文・浜田宗治・濱邊健三・林幸代・林 信夫・林博・林田文子・原豊文・原島和子・原田 修・原田一昭・原田 隆・原田廣正・原田真由美・原田龍次郎・香山房子・半谷浩一郎・(株)ビート・東神山ブロック青年会・樋川雅人・樋口直人・久光幸子・菱山 滋・七宗町立上麻生中学校・日野東一・比野拓也・平井敬治・平澤只二・平田克己・平野公子・平松万砂流・広瀬 香・(株)ヒロックスエンターテインメント・民宿風連・福島悦子・福島真人・福田功・福田雅治・福丸裕子・福来富子・藤井祐二・富士ゼロックス(株)・富士ゼロックス端数倶楽部・

藤田和子・藤田正文・富士フィルム(株)・富士フィルムホールディングス(株)・藤原知子・布施則雄・ブックセンター・一名豊・船戸三枝子・古澤妙子・古澤賢彦・古高利三枝子・古頭陽子・古間木達也・(株)プロジェクトコア・(株)ベッパードサービス・保坂誠・八角奈々子・堀田満・ホテルサンルート高田馬場・堀三智子・堀川美穂・本多麗子・本藤凱生・本間華絵・前田和治・前田保彦・牧野厚史・牧野 洋子・増尾 孝・樹屋 一郎・松井博吉・松浦 松尾・松岡忠一郎・松川 裕・松島 大・松田 徹・松田秀明・松本美千代・(株)松屋・松屋久也・松山洋子・真鍋公記・丸山弘子・丸山芳子・三浦 敦・三浦知穂・三沢市立第二中学校・水田哲生・水谷寛・水野恵一・水野玲二・溝部茂樹・三井映代・南志津子・宮川晴代・宮本昭二・宮本良博・宮城泉仙台第一高等学校・宮古市立第一中学校・宮崎安代・宮田達郎・宮田典正・宮原さゆり・宮原節子・Devo Junko Masae・武藤 惺・宗像亮・村岡榮子・村上喜久・村上洋子・村瀬和良・村山史也・村山昌子・メデア・メデア・目羅敬一・望月政雄・茂又史史・盛岡市立厨川中学校・森川友生男・諸岡直美・(株)ヤギ・柳沼孝子・夜久敦志・矢崎 徹・安岡幸彦・安田雄一・安野真二・谷中美穂・柳澤愛子・矢野 勇・ヤブ(株)・山岡富士江・山賀 繁・山岸寛子・山口望・山口好矢・山下昭子・山田あき・山田曉子・山田 鋏一・山田とし子・山田 弘・山寺大樹・山室仁美・山本英司・山本勝久・山本聡子・由比進・湯川百合子・(株)ユニファクター・横田等・吉居 清・吉岡陽子・吉田啓子・吉田勝・よしとこ・(株)レス・米村邦稔・(株)りふはあと・(株)レックス・(株)ベライオ・和歌和男・脇本秀行・和田多規江・渡辺 章・渡辺しのぶ・渡辺澄子・渡辺千春・渡部直衛・渡辺 慶孝